

平成 28 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

| | |
|--------------------|---|
| 研究領域名 | 複合アニオン化合物の創製と新機能 |
| 領域代表者 | 陰山 洋（京都大学・工学研究科・教授） |
| 研究期間 | 平成 28 年度～平成 32 年度 |
| 科学研究費補助金審査部会における所見 | <p>本研究領域は、従来の無機物質科学における主な研究対象が複数種のカチオンと単一のアニオンからなる化合物であったのに対し、複数種のアニオンからなる「複合アニオン」化合物にフォーカスすることで、従来の固体化学、結晶化学、無機材料科学の枠組みの再構築につながる重要かつ革新的な提案である。複合アニオン化合物に関する研究分野は、我が国が国際的に優位性を有しており、本研究領域の推進によって無機固体物質における構造、結合性と電子構造の自在な制御による革新的な機能の創発がなされ、光触媒、触媒、電池などのエネルギー・環境学分野から、超伝導、磁性などの物性・物理学分野まで幅広く波及効果をもたらすことが期待される。</p> <p>研究組織は、合成、分析、化学機能・物理機能のキーワードのもと、3つの研究項目を設定しており、それぞれが領域内で十分有機的に連携できる体制が構築されている。領域代表者を含めて気鋭の若手研究者を各計画研究の研究代表者とする一方で、経験豊かな研究者を研究分担者や総括班評価者として配置しており、機動的に活動できるバランスのとれた体制である。総括班及び国際活動支援班が、若手育成スクール、トピカル会議、レクチャーツアーなどを先導して行うことによって、若手人材育成や国際共同研究等を推進することについても十分に考慮されている。</p> <p>一方で、各研究の並列的な実施にとどまらず、複合アニオン化合物の統合的な学理を構築するために、相補的な連携を図る領域運営を行う工夫が求められる。</p> |